

## P10-178

### 赤十字病院に所属する専門看護師の活動の現状分析1

名古屋第二赤十字病院 地域医療連携センター相談支援室<sup>1)</sup>、  
京都第一赤十字病院<sup>2)</sup>、日本赤十字専門看護師会<sup>3)</sup>

○高橋 奈美<sup>1,3)</sup>、太田 有美<sup>1,3)</sup>、田中 結美<sup>2,3)</sup>

【目的】昨年、赤十字の施設等における高度看護実践とケアの質の維持向上及びその発展に寄与することを目的として日本赤十字CNS会を発足した。そこで赤十字病院に所属するCNSの活動の現状分析を目的としてCNSが所属する組織の概要と活動内容を報告する。

【方法】対象：赤十字病院に所属（平成22年1月現在）するCNSを対象とした。データ収集：研究参加に同意の得られたCNSの組織の概要と職位、位置づけ、活動内容について記載された内容を分析対象とした。倫理的配慮：活動内容等の提出を持って研究参加の同意が得られたものとした。

【結果】〔専門分野〕は、がん10名、急性・重症集中1名、慢性1名、小児1名、老人1名、母性2名の6領域16名。所属する病院は、北見、石巻、医療センター、大森、武蔵野、横浜市立みなと、名古屋第二、長浜、山田、京都第一、高槻、姫路、高知、熊本の14病院だった。〔職位〕はスタッフ6名、係長4名、師長5名、副部長1名だった。〔組織の位置づけ〕は、看護部長直下のスタッフ4名、看護部長直下のリソースナース会所属2名、看護部フリーポジション4名、医療社会事業部2名、地域医療連携センター1名、病棟3名だった。〔活動内容〕は実践・調整・相談・倫理調整と共にコンサルテーション等のシステム構築を行っていた。また、チーム活動に参加し専門外来（緩和ケア、セカンドオピニオン、高齢者看護）を行い、委員会はがん関連、倫理、医療安全、看護基準、教育、研究関連に属していた。教育活動は専門分野、研究の講師、CNS、認定看護師（以下、CN）の実習指導、院外では大学院、CN教育課程等の講義を担当していた。

【考察】CNSの活動は多岐に渡っており活動の評価が難しい領域であるが、今後アウトカムを出していくことが課題である。

## P10-179

### 名古屋第二赤十字病院における専門看護師・認定看護師の活動の現状と課題

名古屋第二赤十字病院 看護部<sup>1)</sup>、専門・認定看護師会<sup>2)</sup>

○角 由美子<sup>1,2)</sup>、小川 裕子<sup>1,2)</sup>、高橋 奈美<sup>1,2)</sup>、  
松浦 美聡<sup>1,2)</sup>、室田 かおる<sup>1,2)</sup>、奥田 晃子<sup>1,2)</sup>、  
前山 由希子<sup>1,2)</sup>、西川 正美<sup>1,2)</sup>、上野 里恵<sup>1,2)</sup>、  
八田 恵利<sup>1,2)</sup>、岡田 香<sup>1,2)</sup>、宇佐美 康子<sup>1,2)</sup>、  
本田 あや子<sup>1,2)</sup>、加藤 佳代子<sup>1,2)</sup>、木村 麻美<sup>1,2)</sup>、  
田村 秀代<sup>1,2)</sup>

【はじめに】当院は2003年～5名の認定看護師（以下CN）で看護部委員会として組織している。2009年～専門看護師（以下CNS）も加わり活動内容の共有や共通の課題の検討を行っている。今回、活動を振り返り、現状と課題を検討したので報告する。

【方法】2009年度に当院に所属したCNS・CNが活動内容と課題を記載した内容を分析した。

【結果・考察】1.対象の概要：CNS 1領域1名、CN10領域15名。2.活動の概要：会の活動には、「組織化、活動時間と部屋の保証」の要望を行い活動の基盤とした。また複数分野で協働して研修会を行った。個々の活動では、「看護実践、教育・指導、コンサルテーション、調整、マニュアル整備、専門外来（スキンケア、不妊、疼痛緩和）、システム構築」が挙げられ、横断的活動では褥瘡回診、嚥下訓練、疼痛緩和、感染サーベイランス、CNS看護相談の領域で「実践、指導、コンサルテーション、調整」を行っていた。教育的役割では、研修の講師、研究支援やCNS・CN実習指導を行っていた。また院外活動（講師、学会等）も多くあった。各分野の共通課題には「自己のスキル、モチベーション維持、仕事と家庭の両立」の個人の課題、「活動評価の困難さ」という評価の課題、「活動時間の確保、組織内での活動の位置づけ、認知の低さ」の組織内での課題、「手当、資格更新に必要な費用」の経済的な課題が挙げられた。特に、CNS・CNの活動が看護の質向上にどのように関与しているか評価が困難だと感じていた。今回の結果をもとに、活動の質の評価についても今後検討していきたい。

## P10-180

### 赤十字病院に所属する専門看護師の活動の現状分析3ーがん看護CNSの活動の特徴ー

京都第一赤十字病院 看護部<sup>1)</sup>、  
名古屋第二赤十字病院 地域医療連携センター相談支援室<sup>2)</sup>、  
名古屋第二赤十字病院 看護部<sup>3)</sup>

○田中 結美<sup>1)</sup>、高橋 奈美<sup>2)</sup>、太田 有美<sup>3)</sup>

【目的】2008年、赤十字の施設などにおける高度看護実践とケアの質の維持向上及びその発展に寄与することを目的として日本赤十字CNS会を発足した。赤十字病院に所属する専門看護師（以下、CNS）のうち、がん看護CNSの活動の特徴を明らかにすることを目的としてがん看護CNSの活動の現状分析を行ったので報告する。

【方法】対象：赤十字病院に所属（平成22年1月現在）する研究参加に同意の得られたがん看護CNS10名。データ収集：研究参加に同意の得られたCNSの活動内容について記載された内容を分析対象とした。倫理的配慮：活動内容等の提出を持って研究参加の同意が得られたものとした。

【結果】緩和ケアチーム活動：ほぼ全員のがん看護CNSが緩和ケアチームに所属しており、直接ケアをはじめ、コンサルテーション、チームの調整、緩和ケア外来などを行っていた。がん相談支援センターの活動：相談員としての対面相談、電話相談をはじめ、情報提供ツールの整備、患者会の支援・連携、がん患者向けの講演会、がん患者サロンの企画・運営などを行っていた。化学療法に関する活動：外来化学療法センターでの直接ケア、コンサルテーション、化学療法システムの構築などを行っていた。看護師への教育活動：赤十字キャリア開発ラダーの教育、院内・院外のがん看護の教育、CNS・CN教育課程実習生の受け入れなどを行っていた。がん患者の地域連携に関する活動：緩和ケアチーム、がん相談の活動を通してがん患者の退院調整、地域連携などを行っていた。

【考察】がん看護CNSは組織横断的にチーム医療の推進者として中心的役割を果たしている現状が明らかとなった。今後はCNSの活動の成果を示していくことが課題である。

## P10-181

### 赤十字病院に所属する専門看護師の活動の現状分析2

名古屋第二赤十字病院 看護部<sup>1)</sup>、京都第一赤十字病院<sup>2)</sup>、  
名古屋第二赤十字病院 地域医療連携センター相談支援室<sup>3)</sup>

○太田 有美<sup>1)</sup>、高橋 奈美<sup>3)</sup>、田中 結美<sup>2)</sup>

【目的】2009年赤十字の施設等における高度看護実践とケアの質の維持向上及びその発展に寄与することを目的として日本赤十字CNS会を発足した。日本赤十字に所属する専門看護師（以下、CNS）の活動を調査し、活動の成果を明らかにしたので報告する。

【方法】対象：赤十字病院に所属する研究参加に同意の得られたCNS16名（平成22年1月現在）。データ収集：組織の概要と職位、位置づけ、活動内容、組織横断的なチーム活動とその役割、管理業務（管理夜勤など）の有無、看護への影響について自由記載された内容を分析対象とした。倫理的配慮：活動内容等の提出を持って研究参加の同意が得られたものとした。

【結果】専門分野は6領域16名。分析結果1.ケアの質の向上：医師からの相談件数の増加によるチーム医療の強化。患者への意思決定の支援によるQOLの向上。異常の早期発見。在宅への移行などスタッフのアセスメント能力向上によるケアの質の変化。2. スタッフの変化：実践モデル、カンファレンスでの示唆による実践力の向上。研究指導による学習意欲の高まり。倫理カンファレンス継続による倫理意識の変化。看護観の変化3.経済効果：管理料の算定獲得。在宅への意向による在院日数の短縮。4.システムの変化：緩和ケアチーム、せん妄対策プロジェクトなどチーム医療プロジェクトの立ち上げ。キャリア開発ラダーシステム支援。

【考察】専門看護師の専門的知識、活動のプロセスを通してスタッフの意識、技術の変化、システムに影響を及ぼしていることがわかった。専門看護師の活動の成果をさらに客観的データで示すことが課題である。